

『すばらしい人体』

塚田 實

駒沢公園を散歩するときは、ワイアレスイヤホンをつけて、ラジオクラウドを聞くことが多い。中でもTBSラジオの『安住紳一郎の日曜天国』はお気に入りだ。十一月二十一日放送分のゲストコーナーは「外科医・山本健人さんたけひとく人に言いたい医療の話」がテーマだった。

山本氏は一九八四年生まれで、大阪北野病院に勤める若い消化器外科医だ。今年八月『すばらしい人体―あなたの体をめぐる知的冒険』を発刊した。

面白かったのは肛門の話だ。「降りてきたのは固体か液体か気体か」を瞬時に見分け、常時は「気体のときのみ排出する」という高度な選別ができるというイントロだった。かつて直腸がんを患い一時的に人工肛門になり、三ヶ月後に復帰した身にとっては興味深い話だ。要は、肛門には出口を締めている括約筋が二種類あり、外肛門括約筋は制御可能な随意筋であるのに対し、内肛門括約筋は不随意筋で、繊細なセンサーを備えており、降りて来るものの状態を瞬時に判断するとともに、同時に固体と気体が降りてきたときは、気体を優先的に排出することも出来る素晴らしい機能を持つ器官だという説明だった。

これは是非読んでみようと思書館で予約をした。予約のタイミングが遅かったのか、在庫九冊に対して待ちの順番は二百九十四番だった。これじゃ一年経っても順番は回ってこないと諦め、本体価格千七百円の本を買おうと決めた。週末に娘がやってきて、この話をすると娘もこの本には興味があると言い、直ちにアマゾンに発注すると翌日届いた。

今まで「歩くとは何か」など真剣に考えたことはなかったが、この本には人体を構成する様々な器官の働きが易しく説明されている。改めて人体を絶妙なバランスで統制する仕組みに驚いた。本では驚異的な医学の進歩も紹介されている。私はこれに助けられた。

そろそろ後期高齢者の仲間入りをする。体のあちこちに経年劣化があるはずだ。医師と医学を信じて頑張ろう。すばらしい人体に乾杯！